

第108回 維持管理研究会 議事録

1. 開催日時 : 2020年 7月16日 (木) 15:30~17:10
2. 場 所 : Zoomリモート開催
3. 出席者 (敬称略) 18名
相原、石渡、井上、大塚、葛西、金子、木村、清水、守護、菅谷、高橋、徳山、永木、橋川、柳谷、山下、中谷 (記) ゲスト小原
4. 研究テーマ
Covid-19 に対する各社の現状の対応状況、及び大地震発生時の対応方法について検討した。

(1) メンバー参加企業の現状

①勤務形態について

本社や管理部門のデスクワーク中心の勤務者は、今回参加メンバーの企業はテレワーク中心で勤務 (出社は 50%以下) を継続しており、ニューノーマルの働き方となっている。

なお倉庫業 (1社) は、少人数でもあり通常勤務である。

②対策本部の設置タイミングについて

■ Covid-19 関係

設置時期は、1~4月とバラバラであったが、全企業が対策本部を設置していた。

総務・人事中心の対策本部設置の企業や全社事業に大きく影響が予想される企業は、早期に全社対策本部を設置して対応していた。

事例として、アジア圏を含めて全世界で営業や生産を行っている企業では、中国武漢で発生時から対策本部を直ちに設置して、事業影響について検討し対策を実施した。(3社)

■ 7月豪雨関係

今回参加の企業では、大きな影響は発生していない。

運送業の企業で、浸水や土砂災害による通行止めが多く発生した拠点では、荷物の集配送が出来ず、現在も継続している。(九州・中国・中部地方)

(2) 現状で大地震が発生時の対応

⇒長期停電、交通機関 STOP、ネット輻輳などの状態が発生と仮定

案 1 : 現状実施中のバーチャル本部で対応

- ・停電やネット輻輳になれば、対策本部開催が出来ないのではないか？
- ・少数社員が出社している場合、初動対応要員がいないので十分な対応が出来ない。

案 2 : 遠隔地に代替本部を設置 (自然災害と同等)

- ・出社人数が少ないので、事務所の被災状況 (従業員・建物) が十分把握ができない。
- ・事業継続戦略については、代替本部と経営層とネットで対応する。

案 3 : 代替本部とバーチャル本部の併用

- ・役割 (業務分担) を明確にしておかないと、十分機能しない。
- ・全従業員に初動対応を教育する必要がある。(1枚ものを掲示している企業あり)

(3) 今後の課題

① With コロナの時代に合わせた対策本部の検討

- ・オフィス環境も大幅に変化しており、大きな自然災害発生に備えた、新しい対策本部の考え方を再検討する必要がある。
- ・地方工場等の拠店が被災時もバーチャル対策本部で本当に十分な対応が出来るのか。備蓄品の配送や応援要員派遣なども含めて、具体的な本部設置方法の検討が必要である。
- ・報告・連絡・相談や役割明確化も含めて、継続的な訓練実施が必須である。

② 今までの活動に対する見直し

- ・1月からの活動状況を見直し、問題点や課題の洗い出し改善策を検討する。
- ・テレワーク時代となり、少人数出社における初動の対応策を検討する。
(初期消火、通報、避難誘導、応急救護など)
- ・緊急対策本部のミッション
人命の安全確保、顧客への影響、社会的責任、経営の安定 と考えている。

※次回開催予定

8月20日(木) 15:30~17:00 Zoom 開催

以上